

作詞者 奈良県生駒市 岡部 剛機（おかべ たけき） 様

信州大学校歌

- 1 天空（そら）に切り立つ アルプスの
光る白峰（しらみね） 希望に満ちて
理想も高く 今ここに
我等は示す 無限の叡智
ああ 誇らしく 自由の空へ
信州大学 羽ばたいて

- 2 みどり育む 千曲川
清き生命（いのち）の 流れは永遠（とわ）に
あふれる想い 絶え間なく
我等は学び 世界に臨む
ああ 豊かなる 心を磨き
信州大学 輝いて

- 3 深き歴史の 森を越え
時代（とき）を旅する 信濃の風よ
栄（は）えある文化 受け継いで
我等は拓く 遙かな未来
ああ 独創の 轍（わだち）を刻み
信州大学 進み行け

選定理由

親しみがあり覚えやすいこと、また、本学の特色と信州の自然がイメージできることから、永く愛され歌い継がれる歌詞として、当作品を選定しました。

*なお、採用作品は、今後字句の一部を修正する場合があります。

作詞にあたっての想い

校歌を作詞するにあたり、信州大学の理念・目標などを参考にした上で、信州を強くイメージ出来る親しみやすい歌になるように、以下のとおり創作しました。歌詞の内容は、信州大学が、地域社会への貢献及び国際交流の推進等により、時代を導き、切り拓いてゆく姿を表現したものです。

1 番は「アルプスの山」をモチーフにして、信州大学の限りない可能性や、知的資産の活用、力強さ、気高さ等について、抽象的に表現しています。

2 番は、「千曲川」をモチーフにして、信州の自然環境保全、生命の尊さ、福祉、教育の充実、向学心、国際交流、自立した個性、心の豊かさ等を、水の輝きや潤う姿に重ねて、抽象的に表現しています。

3 番は、「信濃の風」をモチーフにして、地域貢献、歴史・文化・伝統の継承及び発展、そして、独創的研究の推進とその成果等について、抽象的に総括しています。

地域を核に、世界へ、そして、未来へと進み行く信州大学の輝く姿が、必要最小限の言葉の隙間から浮かび上がって来るようにと歌詞を考慮し、作品を仕上げた次第です。